

会議記録

名称	第5回中央区高齢者施策推進委員会	
開催年月日	令和3年2月2日(火) 18:30~19:30	
場所	中央区役所8階大会議室	
出席者	委員	和気康太(委員長)、望月孝裕(副委員長)、斎藤達也、玉寄兼治、寺田香織、加藤弘文、佐久間悟、菅野佐百合、平賀淳子、岡田良光、古田島幹雄、土田笑子、佐藤千佳子、間矢重三、坂田直昭、當山貴子、田中智彦、吉田和子、山本光昭
	事務局	高齢者福祉課長、介護保険課長、保険年金課長、住宅課長、高齢者福祉係長
配布資料	<p>中央区高齢者施策推進委員会委員構成</p> <p>第5回中央区高齢者施策推進委員会座席表</p> <p>中央区高齢者の生活実態調査及び介護サービス利用状況等調査報告書、同(概要版)</p> <p>中央区高齢者保健福祉計画・第7期介護保険事業計画(平成30年度~平成32年度)</p> <p>資料1 シンポジウムに関するアンケート集計結果</p> <p>資料2 中央区高齢者保健福祉計画・第8期介護保険事業計画中間のまとめに対するパブリックコメントの実施結果について</p> <p>資料3 中間のまとめからの変更点</p> <p>資料4 中央区高齢者保健福祉計画・第8期介護保険事業計画(案)</p> <p>[参考資料]          高齢者福祉事業のしおり          介護保険べんり帳</p>	

## 第5回中央区高齢者施策推進委員会議事要旨

### 1 開会

事務局より、本会の成立、傍聴人はいないこと及び議事録作成について説明。

委員長より新型コロナウイルスの影響を考慮し、会議の時間を1時間程度にすることを説明。

### 2 議題

#### (1) 中央区高齢者保健福祉計画・第8期介護保険事業計画（案）について

事務局より資料1 シンポジウムに関するアンケート集計結果、資料2 パブリックコメントの実施結果、資料3 中間のまとめからの変更点、資料4 中央区高齢者保健福祉計画・第8期介護保険事業計画（案）について説明。

和気委員長 介護保険料はいつ決まりますか。また、確定したら計画書に記載されるということでよいか。

事務局 3月の区議会に諮り、4月1日付けで介護保険料改定の条例が施行される。計画書には介護保険料の金額は記載される。

和気委員長 計画書案については、特に意見はないようなので、各委員は一言ずつ感想等を述べてほしい。

土田委員 中央粋なまちトレーニングは、7種類ある体操を全て組み合わせて体操すると30分間くらいかかり、息切れすることもある。通いの場では、頭も体も使うという点も入れ、粋トレだけでなく、もう少し内容のバリエーションを広げて、楽しみながらトレーニングができるように考えてほしい。

佐藤委員 通いの場でボランティアをしている。通いの場では、中央粋なまちトレーニングだけをするのではなく、参加者がそれぞれ好きなことに取り組み、いろいろな選択ができるよう、多岐にわたる活動内容の通いの場があつていいと思う。私が参加している通いの場では、粋トレをその中で10分程度で取り入れている。

委員会に参加して、数多くある介護保険事業のサービス内容を理解することができ、非常に勉強になった。中央区に住むシニアの方がどのようにしたら健康に暮らせるかを知る機会として、区民がこのような場に参加することは大切だと感じた。

問矢委員 次期計画の策定過程に触れ、非常に細かく地道にやっていることが分かった。

ひとつ気になったこととして、質問や意見に対してどう検討したかなど、その回答がないことがあった。質問や意見に対して、どう検討や対応をしているかをはっきりするべきだと思う。

具体的には、高齢者生活実態調査案を検討した際、調査の内容が分かりづらいという意見が何人かからあり、副委員長から今回はどのような点に工夫したかという質問があったが、それに対する改善策の検討結果などがなかった。

- 坂田委員 シルバー人材センターでは「区のおしらせ ちゅうおう」の12月1日号に会員及び仕事の募集を行ったところ、過去最多の31人の入会希望があった。しかし、契約実績は、民間の家庭部門では対前年比で40%を超える減となるなど、大きく落ち込んでいる。新型コロナ禍の状況下ではあるが、これからも高齢者のニーズに答えて就労支援に取り組んでいきたい。
- 當山委員 次期計画には「おとしより相談センター」という文言が随所に出てきており、おとしより相談センターが担う重要な役割を改めて認識するとともに、区民のためにさまざまな活動を行っていくつもりである。情報発信が足りない部分があると思うので、区が区民のためにどのような施策を行っているかということをおとしより相談センターも一緒になって発信していきたい。
- 斎藤委員 以前までは、計画を立てるとある程度は達成できた。しかし、次期計画は全く予想ができない。高齢者の医療機関への受診抑制は継続し、外出しないため歩けなくなる、認知症が進むという精神的、肉体的なフレイルが起こっている。このような中、ICTの活用等による安否確認、情報伝達手法の検討も必要であると考えている。高齢者だからICTを使えないということではなく、思い切った施策を考える必要がある。
- 玉寄委員 介護施設に勤務している職員や利用者のPCR検査を実施するよう提案したことがあった。現在は利用者に対して実施体制が整っており、発言が施策に活かされる場合があると実感した。介護施設の職員に対しては、PCR検査が気軽に受けられる体制整備が望まれる。
- 寺田委員 令和2年の認定者数が計画値の9割となっている。実績値が想定より低かったのにはどういう理由が考えられるか。昨年の暮れから今年にかけて介護認定審査会が行われないことがあると聞いた。高齢者が申請をしない、認定調査員が高齢者の家に入れないなど、物理的な事情があつて減ったのか、その理由を教えてください。
- 斎藤委員 介護認定審査会の副委員長をやっている。原因として考えられるのは、新型コロナ禍で自宅に調査員を入れたくないということで、国の臨時的な取扱いにより、更新申請の場合、訪問調査・審査をしなくても、期間が12カ月延長できるようになったことが挙げられる。認定審査会自体もリモートやファックスなどの方法でも可能となり、実際に集まってやる回数は減っている。要介護度が変わらなければ、有効期間を最長36カ月にできることもあり、審査件数は減っている。
- 加藤委員 歯科医師会でも講習会などは中止、もしくはリモートとなっているが、リモートは限界があると感じている。また、入所施設などでは家族と会えないために認知機能の低下が見られることを痛感している。
- 佐久間委員 薬局に来院する高齢者の方の状態が少しずつ悪化しているように感じている。医師

には言いにくい事や相談を薬剤師に話すことがあるので、それらを医師につなげるなど、連携をはかり、高齢者の生活を応援していきたい。

菅野委員 本日の報告で、厚生労働省の調査では、高齢者においてうつと認知機能の低下が約5%増えているということが気になった。最近の傾向として、高齢者の残薬が増えている。朝の薬が飲めていないなど、処方どおりに飲むことができておらず、そのような場合には医師に報告するとともに、薬を飲む時間に合わせて調整するなど、さまざまな対策を考えている。

平賀委員 民生委員としてふれあい活動、見守り活動を行っている。訪問ができない場合は電話をかけるように心掛けている。電話をかけると高齢者から感謝の言葉をかけられることがあり、民生委員としての活動に喜びを感じている。

岡田委員 このコロナ禍で高齢者の活動が制限され、集まることができず、高齢者クラブのイベントも中止になっている。次期計画書にある、健康づくり、地域づくりなど、今は一切できなくなっている状況である。それが現在の高齢者の状態であるが、今後どうしていくべきか検討していきたいと思う。

古田島委員 社会福祉協議会は区と連携しながら、区民と共に地域の福祉を担っているが、この新型コロナ禍でなかなか前に進めない状況である。現在は予防策を徹底して、工夫をしながらさまざまな活動をやっていきたいと考えている。アフターコロナを見据えて、現在はウィズコロナで高齢者支援をしていきたい。ICTの活用を視野に入れ、Zoomの研修も行っているが、電話や手紙という手段でのつながりも大切であると思う。また、生活支援コーディネーターについては、アウトリーチに力を入れる考えである。区との連携を強化して、高齢者支援を推進していきたい。

和気委員長 いくつか出た質問に対して事務局から回答をお願いしたい。

事務局 中央粋なまちトレーニングについて、7種類あるトレーニングを全て行うことはハードであるため、ご自身の状況に合わせていくつかの体操を組み合わせて行っていただく点など丁寧に周知をしていきたい。

問矢委員からの実態調査についての指摘に対しては、後日の委員会などで丁寧な進行を心がけるべきであったと反省しており、今後の会議運営に反映していきたい。現在のコロナ禍で、この計画にどのようにアフターコロナの取組を入れるべきか難しい点があった。なかなか具体的な方策を明示することは難しいが、今後の状況を踏まえ、また委員の意見をよくお聞きし、具体的な取組を工夫していきたい。

介護サービスの計画値と実績値の違いについて、令和2年の実績が少なかった点は確かに新型コロナの影響が大きい。それと同時に認定率の計画値を23~24%と高く設定していた点も原因の一つである。介護保険制度の周知について、65歳以上の高齢者には保険料のお知らせを送付する際に、小冊子を同封している。しかし、現実には本人または親が介護保険の当事者になるタイミング以外に、なかなか興味を持ってもらえないところであるが、さらに周知をしていきたい。

PCR検査については、介護施設の職員を対象とした補助金をつくったので、積極

的に検査を受けられるようサポートしていきたい。

和気委員長 時間が限られているので十分な回答になっていないかもしれないが、以上を事務局からの説明としたい。

望月副委員長 この委員会に参加し、できるだけ住民の立場に寄り添うスタンスでやってきた。困っていることがあれば、住民の側から助けを求めてもいいのではないだろうか。住民と行政の橋渡しになることができれば幸いである。

和気委員長 今日の委員会ですさまざまな意見が出たが、この事業計画を大きく変更することはない。現時点の内容から文言等を変更すべきことがあった場合、最終的な確認は事務局、委員長、副委員長に一任いただくということによろしいか。

(異議なし)

和気委員長 それでは、この最終計画案を本推進委員会で審議し、了承された結果として中央区長に報告することとする。これ以降の進行は事務局にお願いしたい。

和気委員長、吉田委員よりあいさつ。

和気委員長 緊急事態宣言が出ている中、みなさまにはこの委員会に参加していただいたことに感謝する。新型コロナウイルスの感染拡大により、第1回推進委員会の開催時には計画が完成できるかどうか心配であった。しかし、この間の事務局の方々の努力により、何とか「最終案」を報告することが出来てほっとしている。

委員会の進め方に不備があったことは、委員長にも責任があり、お詫び申し上げます。

「オール中央区」で創意工夫をし、この難局に立ち向かってより良い高齢社会をつくっていくことを願う。そのためにも、この委員会は一つの良い機会であったと思う。

吉田委員 昨年の6月から5回にわたり熱心に審議いただいたことに感謝申し上げます。新型コロナ禍にあっても、委員が毎回出席してくれたことにより、さまざまな視点から区内の高齢者の状況を聞くことができ、計画の中に反映することができた。今後3年間、この6つの基本目標を元に計画の実現を目指して努力していきたい。

事務局より今後の予定等について説明。

事務局より追加して発言したい内容がある場合は2月5日までに意見票を送付願いたい旨を連絡した。また、この第8期の計画は保険料が確定した後、冊子として印刷し、4月中旬ごろには各委員に送付することになる旨の報告があった。さらに、本推進委員会の委員の任期は令和4年6月30日までとなっているため、来年度は進捗状況報告のための委員会を1回開催する予定であるとの連

絡があった。

### 3 閉会

和気委員長の閉会宣言にて終了。